

目 次

序にかえて

第 I 部 物理的破壊	1
第 1 章 原子爆弾投下——広島・長崎の被爆	3
§ 1.1 1945 年 8 月 6 日広島	3
§ 1.2 1945 年 8 月 9 日長崎	5
第 1 章文献	7
第 2 章 原子爆弾とその熱線	8
§ 2.1 原子爆弾	8
§ 2.2 火球の形成と熱線の放射	9
§ 2.3 熱線の伝播	10
第 2 章文献	12
第 3 章 原子爆弾による爆風	13
§ 3.1 衝撃波の形成	13
§ 3.2 爆風による被害	13
a) 爆風圧による建造物の破壊(14) b) 各種建造物の被害(14) c) 広島と長崎 における爆風圧特性の推定(21) d) 広島と長崎における建造物被害の比較(22)	
第 3 章文献	24
第 4 章 熱線・爆風・火災による総合的被害	25
§ 4.1 被害の複合	25
§ 4.2 広島被害状況	26
§ 4.3 長崎被害状況	30
第 4 章文献	33
第 5 章 原子爆弾による放射線	34
§ 5.1 初期放射線	34
a) ガンマ線(34) b) 中性子線(34) c) 初期放射線の線量(35)	

§ 5.2 残留放射線	38
a) 誘導放射能(38) b) 放射性降下物(41) c) 体内の残留放射能(42)	
§ 5.3 動植物に対する放射線の影響	43
a) 動物学的調査(43) b) 植物学的調査(45)	
第5章文献	47
第6章 被爆当日の気象	50
§ 6.1 広島の気象	50
§ 6.2 長崎の気象	53
第6章文献	57
第Ⅱ部 身体の傷害	59
第7章 原子爆弾による身体の傷害	61
第7章文献	67
第8章 初期の身体傷害——急性期原子爆弾傷	68
§ 8.1 原子爆弾熱傷	68
a) 原子爆弾から放射される熱線のエネルギー(68) b) 第1次熱傷と第2次熱傷(69) c) 広島・長崎における熱傷の実情(70) d) 原子爆弾熱傷の経過(70)	
§ 8.2 原子爆弾外傷(爆風による傷害)	73
a) 原子爆弾の爆風と外傷(73) b) 第2次損傷とその経過(74)	
§ 8.3 原子爆弾放射能症	74
a) 原子爆弾の放射線と被曝線量(74) b) 放射線の人体に対する傷害作用(75)	
c) 被爆直後の原子爆弾放射能症(77) d) 原子爆弾放射能症の頻度と経過(78)	
e) 血液の急性傷害(82) f) 第2次放射能症(88) g) 生殖機能の障害(90)	
§ 8.4 急性期原子爆弾症の病理	93
a) 被爆直後死亡例(第Ⅰ期)(94) b) 極期から回復期へ——第Ⅱ期の病理(103)	
c) 急性期晩期——第Ⅲ期の病理(108) d) 中枢神経系の病理(109) e) 原子爆弾傷害ことに急性期傷害と誘導放射能(110)	
第8章文献	111
第9章 後障害および遺伝的影響	115
§ 9.1 ケロイド	115
a) ケロイドの発生状況(116) b) ケロイドと肥厚性瘢痕(116) c) ケロイドの経過(119) d) 原子爆弾ケロイドの原因と発生病理(120)	

§ 9.2 血液の障害	122
a) 被爆後の血液学的検診成績(122) b) 特異な血液後障害(124)	
§ 9.3 眼の障害	127
a) 原爆白内障の臨床像(127) b) 原爆白内障の病理組織学的所見(130) c) 原爆白内障の発症頻度(130) d) 原爆白内障の経過(131) e) その他の眼の後障害(132)	
§ 9.4 被爆婦人にみられた後障害.....	132
a) 被爆後無月経(132) b) 被爆後の初潮(133) c) 被爆後の妊娠能力(134) d) 被爆後の不妊症と不育症(135) e) 妊娠経過および流産・早産・死産(135) f) 出生児の性比(136) g) 出生児の生下時体重(136) h) 出生児の早期死亡と発育異常(137)	
§ 9.5 胎内被爆	137
a) 胎内被爆の妊娠経過と終結(138) b) 胎内被爆者の死亡率(139) c) 発育の障害(139) d) 成人期の胎内被爆者(141) e) 小頭症(141)	
§ 9.6 成長と発育の障害	148
a) 被爆児童の成長と発育(148) b) 被爆児童の成熟度(149) c) 被爆児童の歯牙の発育(149) d) 成人後の被爆児童(150)	
§ 9.7 加齢と寿命	150
a) ABCC-予研の寿命調査とその方法(151) b) 総死亡率(152) c) 白血病(153) d) 白血病以外の悪性腫瘍(153) e) その他の死因(154) f) 早期入市者の死亡(155)	
§ 9.8 精神神経系の障害	155
a) 急性期の精神神経障害(156) b) 原子爆弾後障害と神経精神医学(157) c) 被爆者にみられた神経精神医学的症状(157) d) 被爆者の神経症様症状とその理解(159)	
§ 9.9 悪性腫瘍	161
a) 放射線と発癌(161) b) 白血病とその類縁疾患(166) c) 甲状腺癌(178) d) 肺癌(185) e) 乳癌(189) f) 唾液腺腫瘍(194) g) その他の癌(198)	
§ 9.10 染色体の変化.....	204
a) 染色体とその放射線による異常(204) b) 原子爆弾被爆者のリンパ球染色体異常(207) c) 原子爆弾被爆者の骨髄細胞染色体異常(210) d) 被爆による染色体異常と今後の問題(210)	
§ 9.11 遺伝的影響	211
a) 広島・長崎における初期の遺伝学的調査(212) b) 被爆者の子どもの死亡率調査(213) c) 被爆者の子どもの身長についての観察(214) d) 細胞遺伝学的調査(214) e) 遺伝生化学的調査(216) f) 被爆の遺伝的影響と今後の問題	

(216)	
§ 9.12 その他の疾患	217
a) ABCCにおける成人健康調査(217) b) 被爆者医療現場での疾病の実況 (220)	
第9章文献	221
第Ⅲ部 社会生活への影響	241
第10章 原爆と社会——現代の課題	243
§ 10.1 原爆被災をどう受けとめるか	243
§ 10.2 原爆被災の社会生活・社会構造への影響	244
§ 10.3 原爆被災の社会的調査とその困難性	245
第10章文献	252
第11章 破壊された社会	253
§ 11.1 原子爆弾被害の特質	253
§ 11.2 地域社会の崩壊	257
a) 建物の被害(257) b) 被爆人口(260) c) 死亡者数(273) d) 家族の崩壊 (276) e) 社会の組織・機能の壊滅(283)	
§ 11.3 富の喪失	287
a) 富の概念(287) b) 広島市の被害額(289) c) 長崎市の被害額(291) d) 富 喪失額の現在価格での換算(293)	
第11章文献	294
第12章 被爆者の生活	298
§ 12.1 被爆生存者と被爆関係者	298
§ 12.2 職業の問題	309
§ 12.3 被爆者の婚姻	316
§ 12.4 生活苦悩	320
§ 12.5 原爆孤児	324
§ 12.6 原爆孤老	332
§ 12.7 胎内被爆障害者	336
§ 12.8 被爆者の生活変動	341
a) 第1期(1945～54年・昭和20年代)(341) b) 第2期(1955～64年・昭和 30年代)(343) c) 第3期(1965～74年・昭和40年代)(344)	

§ 12.9 外国人の被爆	346
a) はじめに(346) b) 朝鮮人の被爆(348) c) 中国人の被爆(358) d) 留学生 および捕虜の被爆(360) e) 日系アメリカ人の被爆(363) f) その他の外国人 の被爆(363)	
第12章文献	364
第13章 被爆者の精神過程	369
§ 13.1 被爆者のうけた精神的衝撃とその超克	369
a) 原爆投下による精神的打撃(370) b) 被爆後の精神的不平衡とその回復 (372) c) 脆弱な生活基盤と精神的苦悩(375)	
§ 13.2 被爆体験の思想化と核意識	379
a) 被爆者の信念・態度(379) b) 被爆体験の思想化(381)	
第13章文献	383
第IV部 核廃絶への道	385
第14章 原爆被災の調査・研究の推移	387
§ 14.1 医学・自然科学関係の調査と研究	387
a) 被爆直後の調査(387) b) 大学・研究所の初期調査活動(388) c) 学術研 究会議原子爆弾災害調査研究特別委員会(390) d) 日米合同調査団の成立と活 動(392) e) 日本映画社の記録映画と米国戦略爆撃調査団(394) f) 原爆傷害 調査委員会(ABCC)の設置とその後の経過(395) g) 占領体制の終結と調査研 究活動の再開(398) h) ビキニ事件以後の展開(399) i) 原爆調査研究のため の研究所等の設置(401) j) 放射線影響研究所の設立とABCCの廃止(402) k) まとめと補遺(404)	
§ 14.2 人文・社会科学関係の調査と研究	404
a) 諸種の被爆者調査とその理論化(407) b) 歴史学的研究(411) c) 被爆者運 動問題(412)	
第14章文献	414
第15章 被爆者の救護と医療	418
§ 15.1 1945年広島	418
§ 15.2 1945年長崎	424
§ 15.3 被爆直後の医療内容	428
§ 15.4 戦時災害保護法打ち切り以後	431
§ 15.5 ケロイド治療から原爆医療へ	432

§ 15.6	原子爆弾後障害症治療指針	434
§ 15.7	原爆医療法の制定	436
§ 15.8	原爆病院の設立およびそれ以後	438
	第15章文献	442
	第16章 被爆者行政と市民活動	444
§ 16.1	政府の被爆者対策	444
§ 16.2	地方自治体の被爆者対策	449
§ 16.3	被爆者の医療と援護の運動	452
	a) 第1期(1945～56年)(452) b) 第2期(1956～66年)(454) c) 第3期(1966年以降)(455)	
§ 16.4	反原爆の市民運動	457
	a) 運動の萌芽期(457) b) 全国的な運動への発展(459) c) 運動の深化と多様化(464)	
§ 16.5	白書運動から核廃絶へ	466
	a) 被爆記録・資料保存運動の前史(466) b) 原爆被災白書運動の胎動と展開(466) c) 原爆被災復元活動の展開(468) d) 被爆の実相究明から核兵器廃絶へ——ヒロシマ会議, NGO被爆問題国際シンポジウム, 国連軍縮特別総会(470)	
§ 16.6	平和教育	471
	a) 原爆教育の胎動と開花(471) b) 原爆教育の後退と低迷(474) c) 原爆教育の再建と発展(474) d) 原爆教育の内容と形態(476) e) 家庭と社会における平和教育(477)	
	第16章文献	481
	附 録	485
	平和宣言	486
	年 表	488
	あとがき	497
	索 引	501

